

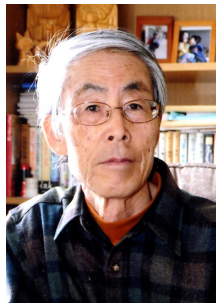
受賞者 喜びの声

道展大賞に高谷喜一さん

<第一部 1席 文部科学大臣賞・道展大賞 「光 輪」>



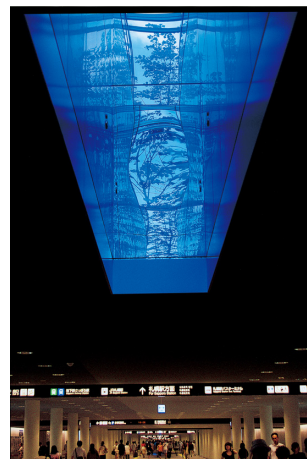
光 輪



通知を見て……大賞の知らせに、まずびっくり、体調を崩している妻からも「よかったね、ごほうびもらったね」と言われ、大変うれしく思いました。受賞の「光輪」は、昨年6月、恵庭市内の「えこりん村」を訪ねた際、太陽の周りに虹がでたように見える「かさ」を見つけ、近くにあったビーナス像を入れて撮影したものです。たまたま、花を見に行つた際にあまりにも見事な光輪に思わずシャッターを押したものでよい写真が撮れたと今でも思っています。東北大震災後、自分にも何か出来ないかと思つていましたが、この写真が希望をイメージする写真であればいいなと思つました。カメラは気象庁時代・仕事で使ううちに好きになり、退職後・今でも常に持ち歩いています。年齢や体調を考えると大胆なことはできませんが、身近なものや心を惹かれる被写体に視線を向けつつカメラと親しんでいきたいと考えています。

<第一部 2席 北海道知事賞 「地上の光」 山本 隆晟さん>

札幌駅から大通りまでの地下歩行空間です。大震災直後セレモニーも控えめに開通したのですが、通行者はとても多く地上の商店街が悲鳴を上げる程とか。自肅ムード全開で、照明が間引かれてかなりの暗さです。天窓からの地上の光がスポットライトのように歩行者を照らします。明暗差への試行錯誤が続きました。曇天の日、日暮れ時、晴れた日の方が鮮やかなガラスの青、結局はハーフNDフィルターというアナログ手法がデジタルノイズを消しました。撮影時「一体何を？」と歩み寄つて見上げる人が何人か居ました。不思議そうな表情の人、笑顔に変わった人、半々くらいでしたか。



地上の光

<第二部 2席 道新文化センター賞 「まだまだ元気」 原 禎子さん>



まだまだ元気



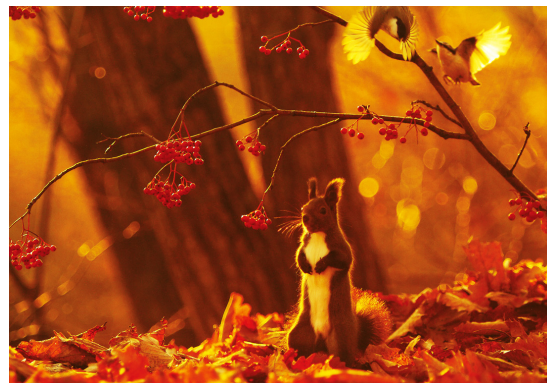
農道を車で移動中、朝靄と見まごう程の野焼きの煙の中でもくもくと一輪車を押す年配の女性、そして、足元の早苗が朝日を浴びてキラキラと輝いている様に思わず眼を奪われました。沢山の作品の中、さしてインパクトもない私の写真に審査の先生方が、目を留めて下さったのは、写真を始めて10年余、未だ自己満足の域を脱せずいっこうに進歩の跡がない私の背中を押して戴いたものとの思いです。カメラと関わることにより、多くの友人を得、毎日を楽しく過ごすことのできる幸せを感じております。

<第三部 2席 北海道写真協会賞 「目覚めの森」 月例会年度賞1位 村上 和子さん>



お陰様で今年は写真道展2席と年度賞1位と二つの大きな賞を頂くことが出来ました。例会では、皆様方の写真や先生方の講評を聞く機会に恵まれ、大変ためになる1年を過ごさせて頂きました。写真道展で2席に入賞した作品は、霜の降つた早朝、エゾリスが赤く燃えた森をバックにかわいい立ち姿を見せてくれた瞬間を撮つたものです。今まで撮影の度に起こる奇跡とも思える自然現象や動物たちのシーンが私に大きな感動を与えてくれました。

これからも常に、被写体に対して、撮らせてもらっているという姿勢を忘れずにシャッターを押していきたいと思つております。最後に私にこんなに素敵なシーンを撮らせてくれた大好きなリスちゃん、ありがとう！撮影を同行して頂いた写友の皆様、ありがとうございました。



目覚めの森